

## 平成21年度新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会（国歯協）報告

平成21年11月15日（日）午前9時より、福岡市博多グリーンホテル2号館において、平成21年度新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会（当番校：九州大学歯学部同窓会）が開催されました。参加校は、大阪大学、岡山大学、鹿児島大学、九州大学、東北大学、徳島大学、長崎大学、新潟大学、広島大学、北海道大学の同窓会10校で、当会からは前日の全歯懇に引き続いて、薦田会長と中西専務理事が参加しました。

協議に先立ち、九州大学病院副院長・口腔総合診療部・樋口勝規教授により、「医科歯科統合後の九州大学病院 ―国立大学病院における歯科の課題を探る―」という演題にて、特別講演が行われました。樋口教授は、歯学部側として統合に直接関わった経験から、統合に際する医病・歯病それぞれの思惑や長所・短所などについて、時系列でわかりやすく説明していただきました。歯病収入の低さに対する歯病職員の多さ（いずれも医病に対して）など病院内での課題は山積しており、歯病が生き残るため、その存在意義をいかにアピールしていくかが重要であり検討しなければならないとのことでした。

協議については、新卒および若い会員の同窓会入会率の調査に対する回答や会費納入率を上げるための対策についての議論が中心となりました。他の国立大学同窓会も本会と同じようにさまざまな工夫をこらして同窓会運営を行っているようで、特に複数の同窓会で取り組んでいる歯学部学生に対する対応、すなわち学生の早い時期からアプローチし、同窓会という組織の存在を説明するだけでなく、必要な援助も行いアピールしていくことが卒後にもつながっていくのではないかという提言に対しては多くの賛同が得られました。また、リーダーとして頑張ってくれそうな人材を学生時代から発掘することも大事かもしれないという意見も出て、本会でも今後検討する余地がありそうです。

この国歯協は“新設”という名前がついているように、東京医科歯科大学を除く国立大学歯学部同窓会が同窓会の運営など身近な内容について意見交換しあえる会として発足した経緯がありましたが、近年、東京医科歯科大学同窓会が国歯協への参加を熱望している状況となり、本件についても当日協議された結果、参加を容認することとなりました。従いまして、次年度より東京医科歯科大学同窓会が新たに参加することで、本協議会の正式名から“新設”が除かれ、「国立大学歯学部同窓会連絡協議会」として新たなスタートを切ることとなりました。

次年度の当番校は北海道大学歯学部同窓会で、札幌にて開催される予定です。